

古代遺跡と伝説の郷

中世、びわ湖を支配し自治の都市を築いた

堅田衆の本拠地

近世、造船王国の由緒を伝える

船大工の故郷

一時一景にやすらぐ白沙の浜など

表情豊かな「まち」が並ぶ堅田・湖族の郷一帯

情感を呼ぶ湖畔独特の風景を楽しみながら

格別の「まち歩き」を!!

北部大津 “ななまちめぐり” シリーズ

# びわ湖・堅田 湖族の郷

# まち歩き マップ

湖畔に、いろんな「まち」が並んでる!!

その昔、マップにある本堅田・今堅田・衣川(きぬがわ)の三つのまちは、合わせて「堅田浦」と称され、そこに住む人々を「堅田衆(湖族)」と呼びました。

堅田衆が最も活躍したのは中世の時代です。堅田大宮とも呼ばれる伊豆神社のもとに成立した「宮座」に団結した堅田衆は、湖上の「関務権」「漁業権」「上乗権(航行の警固)を独占・支配し、そこから得た豊富な資金力をもって「堅田千軒」と称される不可侵堅固な自治都市を築きました。汀には石垣を巡らし、堀割や船入り・町筋を整備し、水車をも保有していたと云われています。現存する神社仏閣の多くが建立され、また、禅僧「二休」が誕生し、「運如」が再起への力と自信を得たのもこの時代の堅田浦でのことです。さらに権門摂家、大名や武将らも湖上を圧倒的に支配する堅田衆を頼りにしました。

その後戦国時代を迎える頃の堅田浦は、船運・漁業・造船の拠点へと変化、軍事・物流の要港として栄えました。特に信長・秀吉は朱印状を下すなどして堅田衆を庇護しました。江戸時代藩制によって堅田浦は本堅田(衣川を含む)と今堅田の二村に分立しますが、湖上では共同して生業を営んでいました。また、芭蕉や茶人藤村庸軒をはじめ、多くの文人墨客が来遊、俳諧や茶の湯の文化がもたらされ、江戸時代後期には、歌川広重が描く近江八景「堅田落雁」の登場により、堅田浦の絶景が広く人々に知られるようになりました。

湖国近江のみならず、わが国の歴史に大変まれでユニークな足跡を残す堅田衆の本拠地・堅田浦湖族の郷。まちには千年余の歴史を秘めた社寺、往時の面影を残す堀割や船入り、居初家をはじめとする郷土屋敷、風情ある町家など、また、おとせや勾当内侍(こうとうないし)の悲話、壬申の乱にまつわる堅田財の包み焼きなどの伝説、さらには京の葵祭に湖魚を献上する伝統の「献饌供御人行列」や「運如忌」、芭蕉を偲ぶ「十六夜の観月会」、それらのまちの祭など、四季折々、多彩な行事も数多く伝えられています。観どころ・聞きどころ、歩きどころがいっぱいの湖畔に並ぶ四つのまちで、まち歩きの楽しさを満喫してください。



制作・発行  
**堅田観光協会**  
〒520-0242 大津市本堅田三丁目7-14  
TEL 077-572-0425  
FAX 077-572-1140  
katetakankokyokai.com

至湖西道路「真野・堅田IC」・葛川・大原

至仰木・奥比叡 DW